

環境経営レポート

株式会社 モリックス

《ご挨拶》

当社は昭和47年創業以来、金属プレス加工、プラスチック成型、及び金型製作を主体として歩んでまいりました。

金属部品とプラスチック部品の融合部、モジュール品を得意とし、金型製作から部品加工までの一貫製作をおこなっております。

当社は環境経営に本格的に取り組み始めて10年余りが経ちますが、今後も慢心することなく、現在の素晴らしい環境を次世代に残すため、何が出来るかを考え、取り組んでいく所存です。

以下、「環境経営レポート」としての取り組みをまとめましたので、私たちの取り組みをご高覧の上、ご指導、ご指摘をいただき次の環境活動に生かして行きたいと存じます。

株式会社 モリックス
代表取締役社長
柳澤 大輔

《目次》

1. 組織の概要	P-1
2. 対象範囲	P-1
3. 環境経営方針	P-2
4. 環境経営目標	P-3
5. 環境経営計画	P-3
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	P-4
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	P-5・6
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	P-7
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	P-7

1. 組織の概要

1. 事業所及び代表者名

株式会社 モリックス
代表取締役社長 柳澤 大輔

2. 所在地

〒370-2216 群馬県甘楽郡甘楽町大字金井277-1

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

<代表責任者及び環境管理責任者>

代表取締役社長 柳澤 大輔
担当 : 同上
TEL : 0274-60-4071
FAX : 0274-74-6371

4. 事業の内容

金属プレス加工 プラスチック成型 金型製作

5. 事業規模

活動規模	単位	2021年度	2022年度
従業員数	人	7	7
資本金	万円	1000	1000
延べ床面積	m ²	880	880

2. 対象範囲

1. 対象範囲（認証・登録範囲）

株式会社モリックス 全組織及び全活動

環境経営方針

〔基本理念〕

当社は、環境に対する社会的使命と責任を、果たすことを経営の重要課題と位置付け、全社員は環境保全施策を推進します。

〔基本方針〕

環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げ取組みます。

1. 当社の主力事業である、金型製作・板金プレス加工・プラスチック成形の各領域において、技術的・経済的な事情を考慮の上、環境に与える影響を低減するとともに、循環型社会の実現に努めます。
 - ①二酸化炭素排出量削減のため、使用電力削減・使用化石燃料削減・廃棄物の削減に努めます。
 - ②事業活動で発生する廃棄物は、発生を抑制するとともに再生利用の向上に努めます。
 - ③限りある水は、使用量削減のため節水に努めます。
2. 環境活動の継続的改善を推進するにあたり、環境目標・環境活動計画を策定し取組みます。策定した目標・活動計画は定期的にあるいは必要に応じて見直します。
3. 事業活動において、環境に関わる法律・規制その他公的基準を遵守します。
4. この環境方針が、確実に実施され、維持されるよう年度教育・訓練計画に取り込み、全社員に周知します。
5. 地域社会への調和と融和に配慮するとともに、適切な環境管理を行います。



2021年 4月 1日

株式会社 モリックス

代表取締役

柳澤 大輔

4. 環境経営目標 5. 環境経営計画

環境経営目標（環境経営レポート対象期間）			環境経営計画（環境経営レポート対象期間）
項目	基準年 （実績）	2022年度 目標	実施事項
1 売り上げ 100万円当 り二酸化炭 素排出量 の維持 (kg/百万 円)	2019年度	2019年度に対して± 10%以内に維持	①空調温度適正化・表示
	437.7		②照明・PC電源不要時のOFFの推進
	43767.2 (kg-CO2)		③エアコン清掃の実施
2 売り上げ 100万円当 り廃棄物排 出量の維持 (kg/百万 円)	2019年度	2019年度に対して± 10%以内に維持	④エコドライブ推進
	7.5		⑤社用車の点検・整備
	180 (kg)		⑥原因分析と削減方法の検討
			⑦使用電力の最大値の削減
			①分別ルールの徹底
			②廃棄物置場の整備
3 従業員一 人当たりの 水使用量 の維持 (m ³)	2019年度	2019年度に対して± 10%以内に維持	③産廃業者との契約書の確認
	12.1		④マニフェスト管理方法の確立
			⑤裏紙使用ルールの徹底
			⑥原因分析と削減方法の検討
4 化学物質 取扱及び 管理の徹 底	—	取扱商品の調査	①取扱商品（化学物質含有）の調査
			②購入量の把握
			③SDSの入手
5 本業に関 する目標	①端材をより少なくする設計、及び端材リサイクルの推進		
	②廃油リサイクルの推進		
	③プラスチックリサイクルの推進		

※ ①と②の実績は、上段は目標に対しての実績、下段は総排出量。

※ 2019年度実績の二酸化炭素排出係数は、東京電力・令和元年度公表（0.441）で算出。

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

空調温度適正化・表示



節水表示



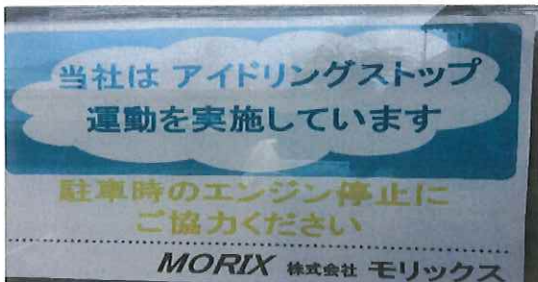
環境に配慮した取組等



施設内の照明LED化90%以上達成



廃棄物の分別表示

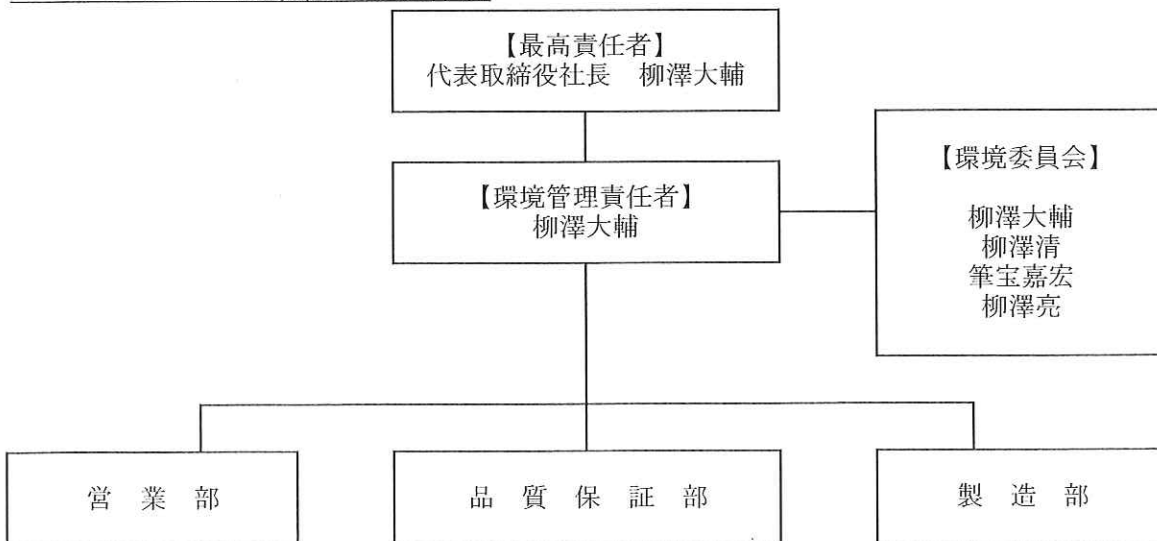


アイドリングストップ運動



敷地内の緑化

エコアクション21取組の実施体制



7. - 1 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

環境経営目標（環境経営レポート対象期間）						環境経営計画（環境経営レポート対象期間）	
項目	基準年 （実績）	2022年度 目標	2022年度 目標値	2022年度 実績	目標の達 成状況	実施事項	評価
1 売り上げ 100万円 当り二酸 化炭素 排出量 の維持	2019年度	2019年 度に対 して、± 10%以 内に維 持	393.9~ 481.5	397.98	達成	①空調温度適正化・表示	◎
	437.7					②照明・PC電源不要時のOFFの推進	◎
						③エアコン清掃の実施	○
						④エコドライブ推進	○
						⑤社用車の点検・整備	◎
						⑥原因分析と削減方法の検討	○
						⑦使用電力の最大値の削減	○
2 売り上げ 100万円 当り廃棄 物排出 量の維 持	2019年度	2019年 度に対 して、± 10%以 内に維 持	6.8~ 8.2	7.6	達成	①分別ルールの徹底	◎
	7.5					②廃棄物置場の整備	◎
						③産廃業者との契約書の確認	◎
						④マニフェスト管理方法の確立	◎
						⑤裏紙使用ルールの徹底	○
						⑥原因分析と削減方法の検討	○
3 従業員 一人当 たりの水 使用量 の維持	2019年度	2019年 度に対 して、± 10%以 内に維 持	10.9~ 13.3	9	達成	①毎月のメータを確認する（漏水防止）	◎
	12.1					②節水表示	◎
						③増量ノズルへの交換	○
						④原因分析と削減方法の検討	○
4 化学物 質取扱 及び管 理の徹 底	—	取扱商 品の調 査	—	—	達成	①取扱商品（化学物質含有）の調査	◎
						②購入量の把握	◎
						③SDSの入手	◎
5 本業に 関する 目標	①端材をより少なくする設計、及び端材リサイクルの推進					◎	
	②廃油リサイクルの推進					◎	
	③プラスチックリサイクルの推進					◎	

※環境経営計画の取組・評価【◎良く取組めた・○取組めた・△取組みが不足していた・×取組めなかった】

※主な環境負荷実績

環境負荷	2019年度 （基準年）	2022年度 （環境活動レポ ート対象期間）
①二酸化炭素排出量（kg-CO ₂ ）	43767.2	39797.66
②廃棄物排出量（kg）	180	105
③水資源投入量（m ³ ）	84.7	63

7. - 2 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境経営目標(環境経営レポート対象期間の次年度及び中長期目標)						環境経営計画(環境経営レポート対象期間の次年度)
項目	基準年 (実績)	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標	実施事項	
1 売り上げ 100万円当 り二酸化炭 素排出量 の維持	2022年度 (kg- CO2/100 万円)	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	①空調温度適正化・表示
						②照明・PC電源不要時のOFFの推進
						③エアコン清掃の実施
						④エコドライブ推進
						⑤社用車の点検・整備
						⑥原因分析と削減方法の検討
						⑦使用電力の最大値の削減
2 売り上げ 100万円当 り廃棄物排 出量の維 持	2022年度 (kg/100万 円)	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	①分別ルールの徹底
						②廃棄物置場の整備
						③産廃業者との契約書の確認
						④マニフェスト管理方法の確立
						⑤裏紙使用ルールの徹底
						⑥原因分析と削減方法の検討
3 従業員一 人当たりの 水使用量 の維持	2022年度 (m ³ /総従 業員数)	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	2022年度 に対して、 ±10%以 内に維持	①毎月のメータを確認する(漏水防止)
						②節水表示
						③増量ノズルへの交換
						④原因分析と削減方法の検討
4 化学物質 取扱及び 管理の徹 底	—	取扱商品 の調査	取扱商品 の調査	取扱商品 の調査	取扱商品 の調査	①取扱商品(化学物質含有)の調査
						②購入量の把握
						③SDSの入手
5 本業に関 する目標						①端材をより少なくする設計、及び端材リサイクルの推進
						②廃油リサイクルの推進
						③プラスチックリサイクルの推進

次年度の環境経営目標及び環境経営計画について

2019～2022年度実施の中期目標は、何れも達成出来た。
このため、2023～2025年度の中期目標に関しても、これを継続維持することが妥当と判断し、
目標を設定した。

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟などの有無

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
大気汚染防止法(群馬県の生活を保護する条例)	届出	遵法
下水道法	届出	遵法
騒音規制法	届出	遵法
振動規制法	届出	遵法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	委託業者との契約とマニフェスト管理	遵法
労働安全衛生法	作業主任者の選任	遵法
消防法	消防用設備の設置・点検	遵法
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	遵法
水銀に関する水俣条約	水銀使用製品の保管、処理委託、収集・運搬、処分・再生を適切に行う	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2023年3月31日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

総括：

今年度が始まる直前に欧州で戦争が開始され、その影響が最も大きかったのは電気料金の高騰であった。

年間の電力使用量は昨年度から微減している状況であるが、さらなる節電に取り組む必要がある。

また、金属・プラスチック・油脂類のリサイクルのさらなる促進、廃棄物の削減に取り組んでいきたい。